

第4期多摩区区民会議 第3回コミュニティ部会

日時：平成25年3月11日（月）18:00～

会場：多摩区役所10階1002会議室

次 第

1 審議テーマに関する取組内容について

～審議テーマに関する現状・課題の確認と課題解決の方向性の検討～

2 第4期区民会議ニュース第2号について

審議テーマ検討の観点

① 方向合致度

→多摩区の目指すべき姿に向かったものか（ひと・水・緑-住み続けたいまち 多摩区（都市マス多摩区構想））。

② 市民協働性・実現性

→市民協働の手法で解決できるものか。

③ 公益性

→広く区民の利益をもたらすものか。

④ 区民ニーズ・必要性

→区や区民の関心が高いものか、必要とされているものか。

⑤ 緊急性

→第4期で取り組むべきものか、早急な取り組みが必要か、時宜を得たものか。

第4期 多摩区区民会議委員名簿

平成24年11月6日現在

任期:平成24年7月1日～平成26年6月30日

(敬称略・50音順)

NO	氏名	部会	推薦団体 及び 活動団体
1	安倍 修司	自然災害部会	多摩区商店街連合会
2	荒井 精一	☆自然災害部会 企画部会	市民公募
3	○石橋 吉章	自然災害部会 企画部会	区長推薦
4	岩崎 宏政	自然災害部会	多摩区・3大学連携協議会
5	◎大津 努	コミュニティ部会 企画部会	多摩区社会福祉協議会
6	清宮 明	自然災害部会	多摩防犯協会
7	国保 久光	コミュニティ部会	川崎市医師会多摩区医師会
8	小塚 千津子	コミュニティ部会	多摩区こども総合支援連携会議
9	白井 正壽	コミュニティ部会	セレサ川崎農業協同組合
10	辻野 勝行	☆コミュニティ部会 企画部会	市民公募
11	○戸高 仁子	コミュニティ部会 企画部会	かわさきかえるプロジェクト
12	西山 英子	コミュニティ部会	多摩区文化協会
13	新田 渉世	自然災害部会	区長推薦
14	配島 裕美	コミュニティ部会	多摩区地域教育会議
15	原田 弘	自然災害部会	多摩交通安全協会
16	藤原 司	自然災害部会	区長推薦
17	細埜 隆己	★自然災害部会 企画部会	登戸土地区画整理事業まちづくり推進協議会
18	本多 正典	コミュニティ部会	市民公募
19	松本 英嗣	★コミュニティ部会 企画部会	多摩区町会連合会
20	吉田 輝久	自然災害部会	多摩区自主防災組織連絡協議会

◎委員長 ○副委員長 ☆部会長 ★副部会長

【参与】

市議会議員

井口 真美 河野 ゆかり 斉藤 隆司 菅原 進 露木 明美
橋本 勝 廣田 健一 三宅 隆介 吉沢 章子

県議会議員

青山 圭一 土井 りゅうすけ

第4期多摩区区民会議 開催スケジュール

平成 25 年 3 月 5 日現在

		平成 24 年度									平成 25 年度															
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
区民会議 (全体会議)	区民会議 ニュース					★ 第1号発行				★ 第2号発行								★ 第3号発行						★ 第4号発行		
	ミーティング ・ 区民会議 フォーラム	第1回 ● 8/24 地域課題について 区民会議の説明			第2回 ● 9/25 審議テーマの ア出し			第3回 ● 10/23 審議テーマ案の 部会案の決定												区民会議フォーラム ・解決策・取組内容 実施主体の検討						
	全体会議	第1回 ● 8/30 ・運営方法の確認 審議テーマについて		第2回 ● 11/6 ・審議テーマの 部会の設置		第3回 ● 2/12 ・現状と課題の全 体審議		第4回 ● 5/28 ・解決策・取組内容・ 実施主体の検討		第5回 ● ・解決策・取組内容・ 実施主体の検討		第6回 ● ・最終報告書の検討 各部会からの報告		第7回 ● ・最終報告書の確認		区長へ結果報告 (最終報告書)										
企画部会 (調整・運営部会)								● 2/4 事前調整		● 事前調整		● 事前調整		● 事前調整		● 事前調整										
専門部会	コミュニティ部会					審議テーマに関する現状・課題 の把握(※)				・解決策の検討 ・実施主体の検討			・取組内容の検討			最終報告に向けての まとめ										
	自然災害部会					審議テーマに関する現状・課題 の把握(※)				・解決策の検討 ・実施主体の検討			・取組内容の検討			最終報告に向けての まとめ										

*適宜現地視察や、関係者ヒアリング、勉強会などを開催。

目的

顔の見える地域に根ざした「絆」を構築する

現 状

①人々の地域との関わり

- ・定年退職した男性はそれまで地域との接触が少なかったため、退職後地域活動に関わるよりも会社から開放された自由を楽しむ気持ちが強く、なかなか地域に出てこない。
- ・若い人は仕事中心で時間がなく、地域への参加はむずかしい。
- ・子どもたちは低学年までは地域との接触があるが、高学年になると塾・習い事などで地域に参加できる時間が少ないため、イベントなどに出てくる子どもが少ない。
- ・戸建住宅の住民は顔見知りになる機会が多いがマンションに住んでいる住民とは顔見知りになる機会が少ない。

②地域参加の機会

- ・本人が気楽に参加したい気持ちになって、その活動の居心地がよければ、続く
- ・多摩ニュータウンには「福祉亭」という食堂がある。人は誰でも必ず食事をするから、イベントには出て来ないが食事なら来るという話だ。また、地域の絆づくりのためにコミュニティカフェを始めた。
- ・わくわくプラザには1～3年生の子どもたちが20～60人くらい来るきている。そういう場に地域の人も手伝いに来ている。
- ・大学生によっては、コミュニケーション能力が身につけていないために、学校生活を続けられない学生が生まれた。そのため、ある大学では学生に対して大学生活の送り方を学習する機会を設けている。
- ・場所ありきではないだろう。人と仕掛けがあれば、場所はあとからついてくる。

課 題

①地域に出てくるしかけづくり

- ・退職して家に引きこもりがちの人たちが地域に出るきっかけが必要。好きなことで引っぱり出すしか方法はないだろう。さまざまな能力をもった退職高齢者を地域に引き出すことが必要だ。
- ・やる気のある人は多少の困難があっても、時間をつくって、どんなところだって出ていく。やる気のない人をどうやって引っぱり出すかが課題だ。
- ・地域に出て来ない人であっても、本当はどこかのコミュニティに属したいのではないか。出てこない人をどうやって出てこさせるようにするかがコ、コミュニティ部会の目的ではないだろうか。
- ・地域の集まりではみんな挨拶や会話をしている。これをどう共助につなげていけるか。
- ・人はたまたま出会ったものを面白い、楽しいと感じて活動が続く。外に出ない人でも、そういう出会いの場をどうしたらつくれるかを考えるとよい。

②コミュニケーション能力をはぐくむ

- ・合築のこ文と老人いこいの家では、高齢者との間に好きなことを教え、教えられる関係が生まれ、楽しい活動が続いている。こうした活動を広げられないか。
- ・人とコミュニケーションできる能力がすべての基本である。それが薄れてきた最近の状況をどうやって変えることができるかを考えることが必要だ。
- ・挨拶ができる関係から、コミュニティは始まる。挨拶運動、声かけ運動も必要だ。

課題解決に向けた方向性（案）

- ① **地域に出てくるしかけづくり**
区民がそれぞれの関心に応じて地域や住民と触れ合える仕掛けを考案し、多くの区民が地域に出てくる機会を増やすことをめざす。
- ② **コミュニケーション能力をはぐくむ**
知り合い同士で気軽にあいさつを交わせるようなコミュニケーション能力をはぐくむ仕掛けを検討、推進する。



課題解決策

具体的な取組

